

地質図を用いた商品開発のすすめ

その3 バンダナ・暖簾

齋藤 眞¹⁾・眞坂 淑恵¹⁾・巖谷 敏光¹⁾

前号はDesign Gardenのシステムで作ったTシャツを紹介しました。今回はinkmax*の魔法の布を使った開発例を紹介します。inkmaxは、特殊な溶剤を使って染色するシステムを提供しており、特殊なインクを用いたインクジェットプリンタで布に印刷するシステムや、溶剤を塗布した布メディア(魔法の布)があります。

商品化されている魔法の布には、2種類のサイズ(A4と1,090mm幅のロール)があり厚さも数種類あります。そして、顔料系のインクジェットプリンタでのプリントが要求されています。我々はまず、A4サイズの布で、インクジェットプリンタの種類とアイロンによる定着増強の有無による耐洗濯性の程度をチェックしました。この結果は以下の通りです。

プリンタ	耐洗濯
エプソンGX系(顔料)	○
エプソンPX系(顔料)	○
エプソンPM系(染料)	×

また、アイロンによる定着増強の有無は耐洗濯性にあまり影響しないことがわかりました。

このテストの結果から、幅1,090mmの魔法の布のロールを用いてエプソンのPX-9500Nで印刷して試作品を作ることにしました。

魔法の布のうち中厚手のポップリンでは、20万分の1日本シームレス地質図**から霧島地域を切り出して50cm角のバンダナを作成しました(写真左)。カッターナイフでロールから切り取るので、縁を折り返して縫う作業が必要になります。バンダナや風呂敷なら、薄

手の綿シャーチングの方が良さそうです。

薄手の綿シャーチングでは、日本列島の地質図(100万分の1日本地質図第3版のデータを使用)の暖簾を作成しました(写真右)。半間幅(900mm)で作成したので、縁の折り返しを含めるとロールの幅(1,090mm)でちょうどでした。2分割でもっと縦長の方が使い勝手は良さそうです。どちらも試作品としては満足度の高いものとなりました。

これに気を良くして2010年2月14日に行われた霧島ジオパークフォーラムIN小林で、バンダナや暖簾の紹介をしたところ、高評価をいただきました。特に暖簾については「霧島の地質図で2種類作り、男湯用、女湯用として各温泉で統一的に使ったらジオパークとして面白い」という意見も出ました。バンダナは色としてはきれいで好印象のようでしたが、地質図の作り手としては凡例がなく地質図の意味が示せないのが残念で、デザインと情報量をどう折り合いをつけるかが課題として残りました。

* <http://designgarden.jp/>

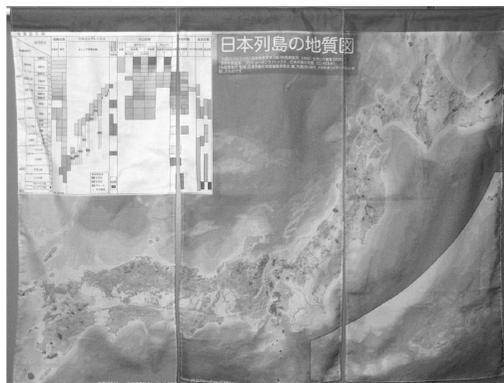
** <http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db084/>

SAITO Makoto, MASAKA Yoshie and IWAYA Toshimitsu (2010): Recommendation of product development using a geological map. 2. Bandana and Noren (short curtain hung at the entrance).

<受付: 2010年5月11日>



バンダナ(50cm角).



暖簾(90cm幅).

1) 産総研 地質情報研究部門

キーワード: 地質図, 商品開発, コンセプト, 布製品, バンダナ, 暖簾